

# 産経新聞

平成24年(2012)日刊24876号

## 3|11[日]



発行所 ©産経新聞東京本社2012  
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2  
☎東京(03)3231-7111 (大代表)



平成**23**年**3**月**11**日午後**2**時**46**分

震源地 **三陸沖**

規模 **マグニチュード9.0**

最大震度 **7** 宮城県栗原市

津波 最大波高**9.3**m以上(福島県相馬市)

(気象庁から)

# 東日本大震災 きょう1年

## 1年間で有感地震1万回超

東日本大震災の影響で日本列島はこの1年間、各地で地震が多発した。マグニチュード(M)9.0の巨大地震の余震や誘発地震が相次ぎ、M7級は計8回発生。震度1以上の有感地震は全国で1万回を超える記録的な数に達した。

気象庁によると、大震災以降の全国の地震は、10日正午までに震度6強と6弱が各4回、5強が18回、5弱が46回。震度4以上は本震を含め329回で、ほぼ連日起きた計算だ。

余震は一般に本震の規模が大きいほど多い。大震災は世界最大級の巨大地震だったため、余震も7千回超と、けた違いに多く、平成16年の新潟県中越地震の約7.5倍に上っている。

本震の約30分後に茨城県鉾田市で、昨年4月7日に仙台市な

### 余震多発、内陸で誘発型も

どで震度6強を観測。発生頻度は標準的なペースで減っているが、統計数理研究所の尾形良彦教授は「沖合で早く減少しているのに対し、陸地の深い場所では減りにくい傾向がみられる」と分析する。

震源域から遠く離れた内陸でも誘発地震が続いた。東北地方などが乗る北米プレート(岩板)は通常、太平洋プレートに押されて圧縮されているが、大震災で両プレート境界が滑って逆に引っ張られるようになり、地殻に働く力のバランスが崩れたためだ。

誘発地震は活断層や火山周辺など地盤が弱い場所で起きやすい。大震災翌日に長野県栄村、同4日後に静岡県富士宮市で震度6強を観測したほか、首都直下でも発生が懸念されている。